

FEATURES

- ・工学、理学、人文・社会科学、医学、防災実践の研究者が協力して世界最先端の研究を推進する**学際性**
- ・レジリエント社会の構築と被災者への貢献を直接目指す**実践性**



災害科学国際研究所のロゴマークは、「災」の字を上下逆に転じたもので、「災いを転じて福となす」という決意を表します。

災害評価・低減研究部門

- 海域地震学研究分野 ● 陸域地震学・火山学研究分野 ● 地震工学研究分野
- 計算安全工学研究分野 ● 津波工学研究分野
- 災害ジオインフォマティクス研究分野 ● 気象・海洋・宙空災害研究分野
- 災害対応ロボティクス研究分野

災害人文社会研究部門

- 災害文化アーカイブ研究分野 ● 歴史文化遺産保全学分野
- 認知科学研究分野 ● 国際防災戦略研究分野
- レジリエンス計画研究分野 ● 空間デザイン戦略研究分野

災害医学研究部門

- 災害医療国際協力学分野 ● 災害医療情報学分野 ● 災害放射線医学分野
- 災害精神医学分野 ● 災害産婦人科学分野 ● 災害公衆衛生学分野
- 災害感染症学分野 ● 災害口腔科学分野

防災実践推進部門

- 防災教育実践学分野 ● 防災社会推進分野 ● 国際研究推進オフィス
- 2030国際防災アジェンダ推進オフィス ● レジリエントEICT研究推進オフィス

寄附研究部門

- 地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門
- 都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門

共同研究部門

- イオン防災環境都市創生共同研究部門
- 日本工営レジリエントシティ技術実装共同研究部門

災害レジリエンス共創センター

災害統計グローバルセンター

気仙沼サテライト

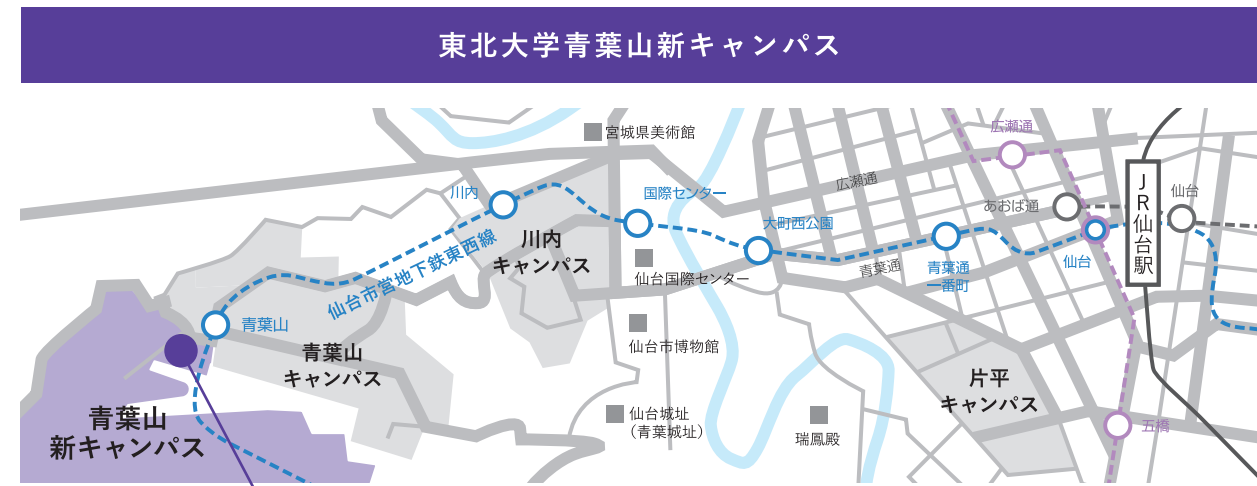
事務部

広報室

TIMELINE

2012年 4月	東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)設立(初代所長 平川 新 教授)
2013年 4月	気仙沼サテライトオフィス設置
2014年 4月	第2代所長 今村 文彦 教授 就任
2015年 3月	第3回国連防災世界会議 仙台での開催に全面協力(「仙台防災枠組 2015-2030」が世界の防災指針となる)
2015年 4月	国連開発計画(UNDP)と共同で災害統計グローバルセンター発足
2017年より	世界防災フォーラム開始
2022年 4月	災害レジリエンス共創センター発足
2022年10月	東北大学災害科学国際研究所 設立10周年記念式典開催、記念誌発行
2023年 4月	第3代所長 栗山 進一 教授 就任

ACCESS アクセス



災害科学国際研究所棟



仙台市営地下鉄東西線：仙台駅から八木山動物公園行き「青葉山」駅下車「南1」出口から出て正面のキャンパスモールを右へ徒歩約3分
タクシー：仙台駅から約20分/料金:約1,600円



東北大学災害科学国際研究所

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
<https://irides.tohoku.ac.jp/>

総務係 TEL:022-752-2011(代表) FAX:022-752-2013
E-mail:irides-syomu@grp.tohoku.ac.jp

広報室 TEL:022-752-2049
E-mail:koho-office@irides.tohoku.ac.jp



気仙沼サテライト



〒988-0246 宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
無料駐車場完備。公共交通機関の利用も可。
詳しくは伝承館のホームページをご覧ください。
<https://kesenuma-memorial.jp/>

International Research Institute of Disaster Science

IRIDeS



災害を、科学する

GREETINGS

東北大学災害科学国際研究所 所長
栗山 進一 教授



世界が必要とする災害科学の知の創造と蓄積に貢献。
得られた知見を迅速に発信し、ローカルかつグローバルに
防災を実践します。

災害科学国際研究所 (IRIDeS: International Research Institute of Disaster Science) は、東日本大震災の約1年後に発足した、東北大学で最も新しい研究所です。2011年3月11日に発生した未曾有の大災害・東日本大震災により、約2万人の方が亡くなり、東日本は大きな打撃を受けました。その教訓から学び、大災害を二度と繰り返さないことを目指し、2012年4月、東北大学はIRIDeSを発足させました。

IRIDeSでは、工学、理学、人文・社会科学、医学、防災実践の研究者が学際的に協力し、世界が必要とする災害科学の知「実践的防災学」の創造・蓄積と、得られた知見の迅速発信、そしてローカルかつグローバルな防災実践を行っています。今日に至るまで、

IRIDeSは国内外の関連機関と連携し、東日本大震災をはじめとする災害のメカニズム解明、被災者・被災地支援、次世代防災システムの構築、防災教育、国際アジェンダ「仙台防災枠組2015-2030」の推進などに尽力してまいりました。

今日、東日本大震災の被災地が新たな復興段階に入りつつある一方で、社会は気候変動で激甚化する災害や、各地における大地震リスクに直面しています。IRIDeSは、「東日本大震災をはじめとする災害被災者の助けとなること」を最重要目標に、これからもレジリエント社会の構築と一人ひとりの防災の実現を目指してまいります。皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

PHILOSOPHY

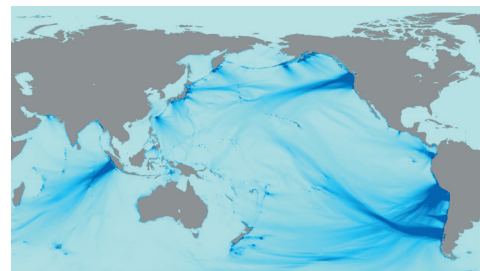
東日本大震災の経験と教訓を踏まえた基本理念

- 1 東北大学の英知を結集し、被災地の再生に貢献する。
東日本大震災をはじめとする災害被災者の助けとなる。
- 2 「仙台防災枠組」をはじめとする国際アジェンダを推進し、
世界の災害被害の減少に貢献する。
- 3 国内外の関連機関と協力し、災害科学の知を創造・蓄積する。
知見を迅速に発信し、ローカル・グローバルに防災を実践する。

ORGANIZATION

災害評価・低減研究部門

理学と工学の統合により、国内外の災害評価及び対応に関する先端研究を推進します。被害の現地調査、各種観測、自然現象と被災過程の数値シミュレーション、先端的リモートセンシング、可視化、ロボット関連技術の開発などの研究に取り組み、防災・減災につながる実践的提案も行います。



災害医学研究部門

連携により発災前から復興期までに関する途切れない研究を行い、広域・複合災害対応型災害医学の確立と最新科学技術の現場への導入に取り組みます。医学の立場から災害への革新的対応を先導し、新型コロナウイルス対策に関しても総合的な学理解析・対策を行います。



寄附研究部門

企業等からの寄附金によって、大学における教育・研究の豊富化、活用化を図ることを目的として設置、運営されています。

災害レジリエンス共創センター

多様な主体と連携し、災害レジリエンスを最大化する「総合知」を共創します。

災害統計グローバルセンター

災害被害統計の収集・分析により世界の防災政策に貢献します。

気仙沼サテライト

研究成果の発信、実務者・市民との交流を推進します。

災害人文社会研究部門

人の心と行動・建物・社会基盤を含む国内外の地域社会を研究対象に、災害教訓を未来に伝え、各地の防災と復興に資することを目指します。歴史・アーカイブ、地域・都市・空間デザイン、認知特性の研究を連携させ、変化する災害に対応した被害軽減と、レジリエントな地域社会構築に向け具体策を提言する研究に取り組みます。



防災実践推進部門

実践的研究を行うと同時に、研究成果の社会実装や地域・国際連携による防災・減災に取り組みます。研究成果は「世界防災フォーラム」や国連の主要会議をはじめとするさまざまな場で国内外に発信し、仙台防災枠組の実施に貢献してまいります。

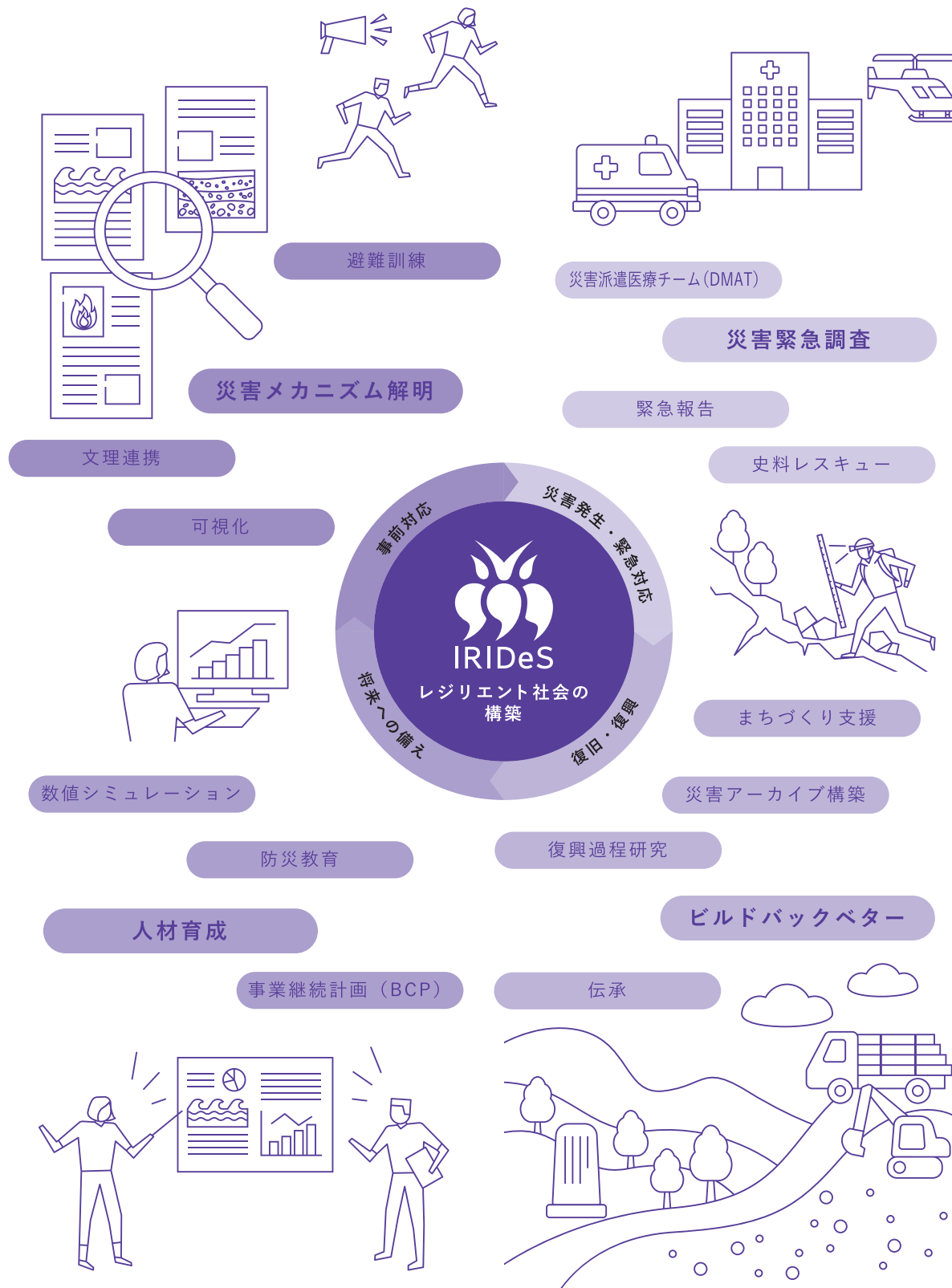


共同研究部門

企業等から資金・研究者等を受け入れ、研究成果の実用化を目指します。

INITIATIVES

「東日本大震災をはじめとする災害被災者の助けとなること」を最重要目標に、
仙台防災枠組2015-2030ほか世界の国際アジェンダを推進。
レジリエント社会の構築を目指します。



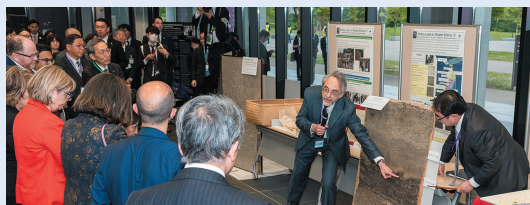
IRIDeS UPDATES

最近の活動から

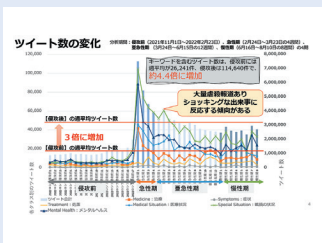
世界防災フォーラム2023を通じ、国連ハイレベル会議(仙台防災枠組中間評価会)に提言



G7科学技術大臣会合関係者がIRIDeSを視察

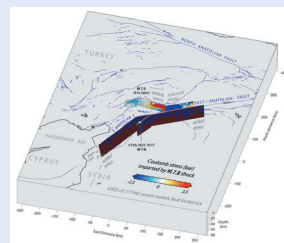


ロシア侵攻下のウクライナにおけるツイッターの分析



トルコ・シリア地震調査・解析

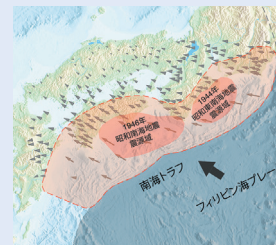
M7.8地震によって歪みが加わり9時間後に誘発されたM7.5地震



シンポジウム「文化遺産とレジリエンス:災害後の文化遺産保全活動の世界的動向から学ぶ」

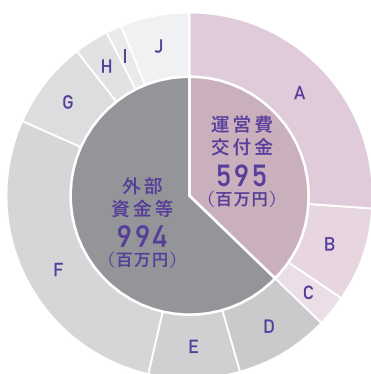


南海トラフ巨大地震が連続発生する確率を算出



詳しくはIRIDeSホームページをご覧ください。 <https://irides.tohoku.ac.jp/>

2022年度の歳出決算額



1,589 百万円

● A 運営費交付金(教員人件費)	415
● B 運営費交付金(教育研究費)	136
● C 運営費交付金(ミッション実現加速化経費)	44
● D 間接経費	131
● E 科学研究費補助金	128
● F 受託研究費	447
● G 共同研究費	121
● H 受託事業費	50
● I その他補助金	21
● J 寄附金	96

(単位:百万円)

教職員数

2023年6月1日現在

225人

専任教員	69人
● 教授 24 ● 准教授 23 ● 講師 2 ● 助教 18 ● 助手 2	
兼任教員	36人
● 教授 22 ● 准教授 11 ● 講師 1 ● 助教 2	
特任教授(客員)・特任准教授(客員)	19人
その他 シニア研究員・研究員・技術補佐員など	80人
事務部	21人

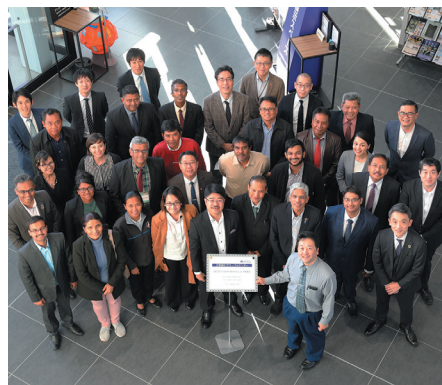
IRIDeS UPDATES

国際連携

世界各地の大学・研究機関や国連等と連携し、災害科学および防災の分野で最先端の研究・実践を進めています。



- 国際研究推進オフィスを設置
- 世界防災フォーラムを開催
- 環太平洋大学協会(APRU)の防災活動をリード
- AIWESTとの連携 など



災害統計グローバルセンター
東北大学・国連開発計画(UNDP)が牽引

国内連携

東日本大震災被災地での復興や、地域の防災・減災対策を支援しています。

- 復興まちづくり
- 避難訓練
- 防災教育 など
- 被災自治体等との連携協定



気仙沼サテライト
地域連携の取り組みを推進

- 地方自治体
岩手県 大槌町・宮古市・陸前高田市
宮城県 石巻市・岩沼市・気仙沼市・塩竈市
仙台市・多賀城市・名取市・東松島市
丸森町・山元町・亶理町
福島県 いわき市
- 教育機関
青森県 八戸工業大学
(インフラ・防災技術社会システム研究センター)
宮城県 多賀城高等学校
宮城教育大学防災教育研修機構
福島県 福島工業高等専門学校
新潟県 新潟大学災害・復興科学研究所
- 伝承施設
岩手県 東日本大震災津波伝承館



一般公開

研究・実践成果を広く公開し、所外の方々との連携を促進する場を設けています。

公開イベント

災害・防災に関するさまざまなテーマで、シンポジウム等の公開イベントを随時開催しています。

展示スペース

IRIDeS棟1階・2階にて研究例などを紹介。

その他

東北大学片平まつり・オープンキャンパス参加など